

時空間変異研究系
基幹型共同研究プロジェクト

方言の形成過程解明のための
全国方言調査

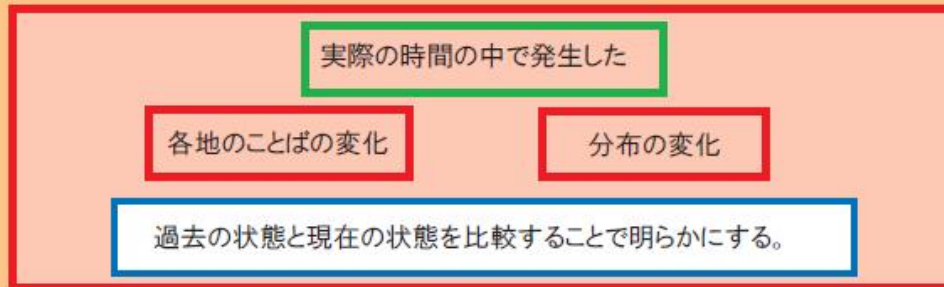
リーダー：教授 大西拓一郎

場所による日本語の違いとしての方言はどのようにしてできたのでしょうか。

それぞれの場所でことばの変化が起こり、その違いがことばの変異＝方言となったと考えられています。

それでは、ことばの変化と場所の間にはどのような関係が見いだせるのでしょうか。

方言の分布がどのようにしてできたのか解明することを目標とするプロジェクトです。



現在の各地のことばの調査

- ・各地での言語変化が想定されることばを全国で調査する。
- ・共同研究者・調査協力者約100名で全国を分担して調査し、データを収集

過去の状態と比較

日本の方言学には、すでに約400冊、30,000枚の言語地図を作成した実績

ことばと分布は
どのように変化したのか



動詞否定辞過去形の全国分布
前世紀には、東西の明瞭なコントラストと西日本の複雑な分布がとらえられた。21世紀の現在、どのような姿を見せるだろうか。



活用の変化と人口密度の関係
人口密度の低いところで言語変化が進行していることを示している。人間社会のあり方と言語変化の関係を把握することも欠かせない。

言語地理学・文化領域論の再活性化
人文科学の究極への挑戦